

## オランダ・ベルギーの絵本のこと、など…

オランダは、レンブラント、フェルメール、ゴッホ、モンドリアンなど数々の画家を生んだことで知られています。絵本の分野でも、ミッフィー(うさこちゃん)の作者として親しまれるディック・ブルーナ、「かえるくん」シリーズのマックス・ベルジュイスなど、日本でもなじみの深い作家を輩出しています。隣国のベルギーも独特の絵本文化が開花しました。オランダとベルギーは、神聖ローマ帝国の支配下にあった時代は、「ネーデルランド連合王国」と呼ばれる一つの地域でしたが、その後、オランダは17世紀に、ベルギーは19世紀に独立しました。オランダとベルギーは、地理的、言語的にも親近性が高く、日本との交流も長い歴史があります。またオランダは、外国人の参政権や同性結婚を認めており、差別をなくす取り組みをしています。このイベントでは、オランダ語などの翻訳家として、多くの本を翻訳出版されている講師による、オランダとベルギーの絵本・児童書の魅力や海外生活などについてのトークと、絵本・紙芝居を楽しみながら、多文化共生、子ども・子育てなどについて考えます。

### 【講師プロフィール】

**野坂悦子 (のざか えつこ) さん**      児童文学翻訳家、作家

早稲田大学第一文学部英文学科卒業。1985年から5年間、オランダなどでの滞在を機に、本格的に翻訳家としての活動を始める。オランダ語、英語、フランス語の児童文学の翻訳家として、100冊以上の絵本・児童書を手がける。訳書に『第八森の子どもたち』(福音館書店)、『フランダースの犬』(岩波書店)、『おじいちゃんわすれないよ』(金の星社、第50回産経児童出版文化賞大賞受賞)など。2001年、紙芝居の文化の会創立に加わり、15年にわたり紙芝居を世界に紹介している。紙芝居、絵本の創作も手がけ、作品に『やさしいまものバツパー』(童心社)、『ロロとレレのほしのはな』(小学館)などがある。紙芝居文化の会海外統括委員、日本国際児童図書評議会(JBBY)、日本ペンクラブ、日本文藝家協会会員。



**吉村紀子 (よしむら のりこ) さん、平野順子 (ひらの じゅんこ) さん**

#### ●読み聞かせボランティアグループ「きしゃぼつぽ」

1999年、港区の生涯学習講座を受講後、有志たちで自主的な活動グループを立ち上げ、今年で設立19年目となる。絵本の読み聞かせを中心に、港区内の図書館、児童館など各所で、子どもの読書推進に関わる活動を続けている。



- 都営三田線「芝公園駅」A1出口 から徒歩3分  
※車いす、ベビーカー等ご使用の方は、A3出口エレベーターをご利用ください。
- 都営浅草線・都営大江戸線「大門駅」A3出口から徒歩7分
- JR・東京モノレール「浜松町駅」金杉橋口から徒歩8分

写真(大):アムステルダム・ヨルダーン地区の街並(オランダ)  
写真(小):ポクレイク野外博物館(ベルギー)